

# 阿部長先生との思い出

佐藤 裕一 著

## 別れのご挨拶

令和元年の12月17日に、阿部長先生が突然だけれども話をしたいとおっしゃり、事務所の弁護士・職員が会議室に集まりました。毎朝9時前にバスで出勤してきて、夕方まで仕事をして、決して辛いか苦しいとかいう言葉を口にはしませんでした。先生の体調が良くないことはみんな判っていました。

「協同化したこの16年間本当にありがとう。弁護士生活の最後を皆さんのおかげでとても楽しく、充実して過ごすことができました。何度か、大病をしては、乗りこえてきましたが、いよいよ今回は駄目なようです。医師から来年の桜の花を見ることは難しいと言われました。」

事務所に來るのが、毎日実に楽しみでした。最近も若い先生方から事件の相談を受けて、私の経験をお話しし、少しでも事務所の役に立つことができうれしかった。事務局の皆さんにも本当にお世話になりました。朝と3時のお茶とおやつを毎日工夫して用意してくれてあり



▲ 温顔のりし

がとう。隣の事務局室から聞こえてくる、若く明るい笑い声が大好きでした。」

それは紛れもなく、阿部長先生の別れのご挨拶でした。

すっかり治療して一緒に良覚院丁庭園の桜を見ましょう、とか、東京オリピックも事務所のテレビと一緒に見ましょう、という激励の言葉が出され、「そうしたいなあ」と先生も笑顔で応

えましたが、それを実現するのが難しいことは、そこにいるみんなが心の中で感じていました。

阿部長先生はその翌々日に入院し、退院することなく、令和2年1月28日に永眠されました。

阿部長先生は、昭和31年に東北大学法学部を卒業と同時に、北海道電力に就職しました。会社での生活は公私ともにとても楽しかったようで、いつも酒に酔うと北海道時代の話を目を細めて懐かしそうに話されました。お母様の病気で仙台に帰ることになり、恩師の中川善之助先生(当時の東北大学法学部教授、家族法の権威)に相談して司法試験を受けることにしたそうです。間もなく合格し、昭和40年に弁護士登録(17期)し、勅使河原協同法律事務所に勤務しました。阿部長先生は勅使河原安夫先生(3期、故人)のことを生涯にわたって敬愛していました。勅使河原先生は2度仙台市長選挙に立候補しましたが、いずれも事前に阿部長先生に出馬の是非を相談され、先

生は2度とも反対されたそうです。でも立候補が決まると、実際の選挙では、選対本部の先頭に立って応援しました。どんなときでも、自ら行動する先生でした。

平成11年に阿部長先生が、負債総額300億円という債権者申立ての大型観光ホテルの破産管財人に選任され、小野寺友宏先生(44期)と私が管財人代理を務めました。反社会的勢力や労働組合との対峙を含んだ難しい事件でしたが、先生はきめ細かにしかも毅然として対応しました。阿部長先生については、大局観があるとか、バランス感覚が素晴らしいと評されることが多いと思いますが、この管財事件を通じて、私は弁護士としての鋭敏な感覚と大いなる勇気の大切さを学びました。

弁護士会の会務は、昭和60年に仙台弁護士会会長、翌年には日本弁護士連合会副会長を務めました。その後も東北弁護士連合会代議員会議長という要職を歴任しました。

阿部長法律事務所時代の  
 イソ弁には阿部泰雄先生(26期)、服部美知子先生(30期、現大阪弁護士会)、氏家和男先生(32期、故人)、小高雄悦先生(34期)、私(37期)、内田正之先生(40期)がいました。当時はイソ弁が事務所に1名という時代で、極めて居心地の良い事務所でした。その後氏家先生と内田先生が熱心に会務を行い、ご自分の後を追って仙台弁護士会会長、日本弁護士連合会副会長に選出されたときは、我がことのようにとても喜んでいました。田村幸一先生(30期、前高松高等裁判所長官)は指導した自慢の司法修習生でしたので、定年退官後に、私どもの事務所です仕事をしたという意向を伺ったとき、阿部長先生は本当にうれしそうでした。

平成27年5月に阿部長先生は日本弁護士連合会の50周年表彰を受けられました。会場のパレスホテル東京には、前年度日本弁護士連合会副会長の内田正之先生や当事務所の弁護士はもちろん、昭和60年度の仙台弁護士会

▼ 弁護士50周年の表彰式後の祝賀パーティー



阿部長執行部の副会長だった佐藤正明先生(26期、故人)と庶務委員長を務められた鈴木宏一先生(27期)がお祝いに駆けつけてくれました。先生は、元気に50周年を迎えることができ、みんなに囲まれてとても幸せそうでした。

門下生の氏家和男先生が急逝したのは、東日本大震災が起きた平成23年の年末でした。折悪しく阿部長先生は難病で入院中であり、さぞかしお心落としになるだろうと心配して、暫くは訃報を伏せていました。1年後には先生も回復し、門下生も一緒に1周忌に栗原市一迫にある

氏家家のお墓参りをしました。仙台は晴れていたのに、一迫は一面の銀世界でした。阿部長先生は「氏家先生、ごめん。やっとお参りに来ることができたよ。」と静かにお墓に向かって語りかけました。吹雪の降りしきる中、南の空に太陽が白く小さく輝いているのが見えました。

阿部長先生、35年間のご指導ありがとうございました。どうぞ安らかに眠りください。



▲ 栗原市一迫へのお墓参り